

(2) 美術館機能 (豊科)

市民の生涯学習の視点を大切に、優れた美術作品に触れることができ、また、自らの感性を高める実践の場、発表の場ともなる「基幹美術館」を充実、整備します。



市基幹美術館として期待される豊科近代美術館

市が目指す
交流学習センター

全体として
5つの機能を
果たします

(1) 図書館機能

市民の幅広い志向にこたえ、より質の高い情報を提供できる「情報センター」を目標に、市内全域で図書館サービスが受けられる体制を整備します。



図書館は生涯学習の拠点

(3) 交流センター機能

自立志向の市民やボランティアグループなどと連携し、ホールやギャラリーを使った市民参加による事業を企画開催し、さまざまな市民の交流を進め、活気に満ちた魅力的なまちをつくります。



児童館は健全育成の拠点

(4) 地域学習館機能 (穂高)

市民の学習意欲の高揚にこたえ、自らが地域の歴史や文化、自然、人物、産業などを探求、また、成果を発表できる拠点を整備し、安曇野市民のアイデンティティーの確立を目指します。

(5) 児童館機能 (三郷)

幅広い年代の子どもたちや親が集い、活動できる、子育て支援センター機能も備えた充実した「児童館」を整備します。

交流学習の新たな拠点

安曇野市交流学習センター 基本構想がまとまる

市ではこのたび、豊科・穂高・三郷の3地域に計画している交流学習センターの基本構想図をまとめました。市が目指す「交流学習センター」の機能と各施設の概要について紹介します。

市としての視点から
検討が行われる

昨年2月、旧豊科町・穂高町・三郷村で検討されてきた図書館を核にしたそれぞれの施設のあり方を、安曇野市としての視点から検証するために「安曇野市交流学習センター施設検討委員会」が設けられました。同委員会では、17回の会議、2回の公聴会を開催し、昨年11月には、その検討結果が報告書としてまとめられました。

市では、この報告書に基づき、今年1月から基本構想図の作成に取り組んできました。基本構想図をまとめていく経過として、市図書館協議会・市博物館協議会・美術館関係者による意見交換、図書館や建物についての専門家による指導助言、図書館支援ボランティア団体・図書館実務者協議会での議論、市議会等への説明、また、先進地の視察研修を行いながら、さまざまな見地から検討を行いました。3月には、これらの意見を反映した基本構想図(素案)を作成。市民の皆さんからこの案に対する

る意見をお聞きするために、現地踏査を含む「市民ワークショップ」を全5回開催しました。そして7月、多くの皆さんからのご意見・ご提言をもとに、市にとって、またそれぞれの地域にとって真に必要なとされる図書館・美術館・児童館などの複合施設「交流学習センター」の基本構想図をまとめました。この構想では、3施設の機能、規模が明示されたほか、建設事業費についても、旧町村の計画に比べて約10億円の大幅な削減が図られ、効率的な維持管理の具体策も示されています。



1.交流学習センター施設検討委員会が施設のあるべき姿をまとめた報告書を提出(H18.11.16) 2.基本構想図(案)を基にした市民ワークショップを開催(H19.3.18・豊科) 3.(H19.3.10・穂高) 4.(H19.3.17・三郷)

交流の場、学習の場として、
市民活動を支援する体制づくりを目指します。